

星野学園小学校新聞

星野学園小学校
 埼玉県川越市上寺山 216-1
 〒350-0826 Tel.049(227)5588
 星野学園小学校 Web
www.hoshinogakuen.ed.jp/hes/

星小算数の今

低中高学年それぞれの授業

星野学園小学校も開校十年目を迎え、次の十年に向けての取り組みが始まっている。教科教育もその一つで、児童が確かな学力を身に付けられるように、教員一同研鑽を積んでいる。今回は星小の教科指導のなかでも、以前紹介した算数をより詳しくお伝えする。



かけ算九九は何度も唱えて覚えます。

低学年の算数は、こ語の中にヒントにれから学んでいくことになる数字が書かれとや生活の基盤となっていて、児童は楽しんでるものであるため、しみながら計算や時つかりと定着してい計など算数への理く必要がある。一年生解を深めている。二の授業では、授業で長年生ではその後のめの文章題に取り組算数で何度も使わむことで、児童の「文れるかけ九九を章から読み取る力」の繰り返し丁寧な指向上を図っている。物導している。また単元ごとに自分で問題作りをを行い、学習の定着を深めている。

中学年の算数では、見て触れる算数の体験に力を入れている。三年生の長さの授業で「m」、「km」を感じ、予想と違いがかけ離れた結果に驚嘆し



グランプリ金賞！功績が認められました！



立派な盾を頂きました。

シリーズ 星小の教科指導 特別編

た。四年生の角度の授業では、傾きにあてて測る学習を行つた。スロープ、滑り台など身近にある傾きを見つけて測り、角度の感覚を養った。児童が知的好奇心や探究心をもって自ら学ぶ意欲を高め主体的に学ぶ力を身につけることができる。楽しみながら学ぶことで、自ら問題を解決しようとする気持ちが芽生えるのだ。

高学年の算数では本質の理解に力を入れている。本質の理解とは、「なぜ、円の面積は半径×半径×円周率で求められるのか。」や、「なぜ、分数

小分数は逆数のかけ算に変わるのか」といった、世間では「公式を暗記してしまおうよ」という事象で立ち止まることが多い。仕組みまで理解すること、日々の授業では、児童の気付きや発見に耳を傾けることに重きを置いていく。その中で最も大切なことは、児童の考えを受け止めること、寄り添うことである。児童の考えを聞き止めることは、まだ未熟で不十分なことがある。しかし、そこで教員が「〇ね？」という問いかけではなく、「それはどういうこと？」とあえて問い返す。そうすることで、更に他の児童にも考えさせ、説明させることができる。このようにして、児童にとって生きるために必要な論理力を日々育んでいる。

(篠原)

傾き発見！さて何度？

【展開算数】
 本校の五、六年生は週に一時間、習熟度別で行う「展開算数」の授業がある。展開算数が始まるのは五年生からで、児童は、算数の習熟度に合わせて、三つのコースに分けられる。コース名は、「ステップ」、「ジャンプ」と呼ばれており、コース毎に教員一、二名が担当し、オリジナルのプリントなどをを使い、きめ細やかな段階別の指導を行っている。まず、難問に自力で挑戦するジャンプコースは、中学入試問題レベルの発展問題に挑戦し、自分の力を最大限に伸ばす

【数検】
 星野学園小学校では六年生になると実用数学技能検定(いわゆる数検)の六級に挑戦している。数検六級は小学校六年生まで広く出題されており、基本的、総合的な知識の習得を確認することは重要なことである。本校では小学校六年間の総まとめとして毎年実施している。毎年合格率は約九〇%と、

(山口)

【展開算数】
 本校の五、六年生は週に一時間、習熟度別で行う「展開算数」の授業がある。展開算数が始まるのは五年生からで、児童は、算数の習熟度に合わせて、三つのコースに分けられる。コース名は、「ステップ」、「ジャンプ」と呼ばれており、コース毎に教員一、二名が担当し、オリジナルのプリントなどをを使い、きめ細やかな段階別の指導を行っている。まず、難問に自力で挑戦するジャンプコースは、中学入試問題レベルの発展問題に挑戦し、自分の力を最大限に伸ばす

か。や、「なぜ、分数小分数は逆数のかけ算に変わるのか」といった、世間では「公式を暗記してしまおうよ」という事象で立ち止まることが多い。仕組みまで理解すること、日々の授業では、児童の気付きや発見に耳を傾けることに重きを置いていく。その中で最も大切なことは、児童の考えを受け止めること、寄り添うことである。児童の考えを聞き止めることは、まだ未熟で不十分なことがある。しかし、そこで教員が「〇ね？」という問いかけではなく、「それはどういうこと？」とあえて問い返す。そうすることで、更に他の児童にも考えさせ、説明させることができる。このようにして、児童にとって生きるために必要な論理力を日々育んでいる。

(篠原)

星野学園小学校 Web
 本校のウェブページでは、星野っ子の日常や、楽しい行事の様子をアップしております。本紙と併せてご覧ください。

更新中！



少人数で個に応じた丁寧な指導を行う。

た。四年生の角度の授業では、傾きにあてて測る学習を行つた。スロープ、滑り台など身近にある傾きを見つけて測り、角度の感覚を養った。児童が知的好奇心や探究心をもって自ら学ぶ意欲を高め主体的に学ぶ力を身につけることができる。楽しみながら学ぶことで、自ら問題を解決しようとする気持ちが芽生えるのだ。

高学年の算数では本質の理解に力を入れている。本質の理解とは、「なぜ、円の面積は半径×半径×円周率で求められるのか。」や、「なぜ、分数

【展開算数】
 本校の五、六年生は週に一時間、習熟度別で行う「展開算数」の授業がある。展開算数が始まるのは五年生からで、児童は、算数の習熟度に合わせて、三つのコースに分けられる。コース名は、「ステップ」、「ジャンプ」と呼ばれており、コース毎に教員一、二名が担当し、オリジナルのプリントなどをを使い、きめ細やかな段階別の指導を行っている。まず、難問に自力で挑戦するジャンプコースは、中学入試問題レベルの発展問題に挑戦し、自分の力を最大限に伸ばす

【数検】
 星野学園小学校では六年生になると実用数学技能検定(いわゆる数検)の六級に挑戦している。数検六級は小学校六年生まで広く出題されており、基本的、総合的な知識の習得を確認することは重要なことである。本校では小学校六年間の総まとめとして毎年実施している。毎年合格率は約九〇%と、

(山口)

た。四年生の角度の授業では、傾きにあてて測る学習を行つた。スロープ、滑り台など身近にある傾きを見つけて測り、角度の感覚を養った。児童が知的好奇心や探究心をもって自ら学ぶ意欲を高め主体的に学ぶ力を身につけることができる。楽しみながら学ぶことで、自ら問題を解決しようとする気持ちが芽生えるのだ。

高学年の算数では本質の理解に力を入れている。本質の理解とは、「なぜ、円の面積は半径×半径×円周率で求められるのか。」や、「なぜ、分数

た。四年生の角度の授業では、傾きにあてて測る学習を行つた。スロープ、滑り台など身近にある傾きを見つけて測り、角度の感覚を養った。児童が知的好奇心や探究心をもって自ら学ぶ意欲を高め主体的に学ぶ力を身につけることができる。楽しみながら学ぶことで、自ら問題を解決しようとする気持ちが芽生えるのだ。

高学年の算数では本質の理解に力を入れている。本質の理解とは、「なぜ、円の面積は半径×半径×円周率で求められるのか。」や、「なぜ、分数

【展開算数】
 本校の五、六年生は週に一時間、習熟度別で行う「展開算数」の授業がある。展開算数が始まるのは五年生からで、児童は、算数の習熟度に合わせて、三つのコースに分けられる。コース名は、「ステップ」、「ジャンプ」と呼ばれており、コース毎に教員一、二名が担当し、オリジナルのプリントなどをを使い、きめ細やかな段階別の指導を行っている。まず、難問に自力で挑戦するジャンプコースは、中学入試問題レベルの発展問題に挑戦し、自分の力を最大限に伸ばす

【数検】
 星野学園小学校では六年生になると実用数学技能検定(いわゆる数検)の六級に挑戦している。数検六級は小学校六年生まで広く出題されており、基本的、総合的な知識の習得を確認することは重要なことである。本校では小学校六年間の総まとめとして毎年実施している。毎年合格率は約九〇%と、

(山口)

た。四年生の角度の授業では、傾きにあてて測る学習を行つた。スロープ、滑り台など身近にある傾きを見つけて測り、角度の感覚を養った。児童が知的好奇心や探究心をもって自ら学ぶ意欲を高め主体的に学ぶ力を身につけることができる。楽しみながら学ぶことで、自ら問題を解決しようとする気持ちが芽生えるのだ。

高学年の算数では本質の理解に力を入れている。本質の理解とは、「なぜ、円の面積は半径×半径×円周率で求められるのか。」や、「なぜ、分数

た。四年生の角度の授業では、傾きにあてて測る学習を行つた。スロープ、滑り台など身近にある傾きを見つけて測り、角度の感覚を養った。児童が知的好奇心や探究心をもって自ら学ぶ意欲を高め主体的に学ぶ力を身につけることができる。楽しみながら学ぶことで、自ら問題を解決しようとする気持ちが芽生えるのだ。

高学年の算数では本質の理解に力を入れている。本質の理解とは、「なぜ、円の面積は半径×半径×円周率で求められるのか。」や、「なぜ、分数

【展開算数】
 本校の五、六年生は週に一時間、習熟度別で行う「展開算数」の授業がある。展開算数が始まるのは五年生からで、児童は、算数の習熟度に合わせて、三つのコースに分けられる。コース名は、「ステップ」、「ジャンプ」と呼ばれており、コース毎に教員一、二名が担当し、オリジナルのプリントなどをを使い、きめ細やかな段階別の指導を行っている。まず、難問に自力で挑戦するジャンプコースは、中学入試問題レベルの発展問題に挑戦し、自分の力を最大限に伸ばす

【数検】
 星野学園小学校では六年生になると実用数学技能検定(いわゆる数検)の六級に挑戦している。数検六級は小学校六年生まで広く出題されており、基本的、総合的な知識の習得を確認することは重要なことである。本校では小学校六年間の総まとめとして毎年実施している。毎年合格率は約九〇%と、

(山口)

た。四年生の角度の授業では、傾きにあてて測る学習を行つた。スロープ、滑り台など身近にある傾きを見つけて測り、角度の感覚を養った。児童が知的好奇心や探究心をもって自ら学ぶ意欲を高め主体的に学ぶ力を身につけることができる。楽しみながら学ぶことで、自ら問題を解決しようとする気持ちが芽生えるのだ。

高学年の算数では本質の理解に力を入れている。本質の理解とは、「なぜ、円の面積は半径×半径×円周率で求められるのか。」や、「なぜ、分数

秋の行事と星野っ子

運動の秋、読書の秋、芸術の秋……多くの冠をもつ秋であるが、星野学園小学校においては「行事の秋」も忘れることはできないであろう。今回は数ある秋の行事から、四つを紹介する。

秋の遠足

十月十四日(金)、星野学園小学校の一年生から三年生は、国営武蔵丘陵森林公園へ秋の遠足に行った。天候にも恵まれ、園内では、子どもたちはそれぞれ目的の地を目指して長い道のりを歩いて行った。

一年生は大きなトランポリンのある広場へ行き、クラスの垣根を越えて、全身を使って楽しく跳ね回って遊んだ。一年生は公園内のキッズドームに行き、学校や普段の生活にはないようなたくさんのおもちゃで遊んだ。譲り合ったり、友達と協力したりと、遊びの中に子ども



今号での記事はないものの、体育祭も秋の大切な行事。



ポンボコマウンテンで空までジャンプ!

ちの思いやりを感じた。

一年生と二年生は、それぞれ楽しんだ後に合流し、一緒に昼食を食べて、親睦を深め合うこともできた。本校の大切にする縦割り活動の一環として始まったこの合同ランチも、今回で九回目。上級生が下級生をいたわり、下級生が上級生を慕う文化が根付くように、



2年生がリードしながら食べました。

今年も縦割り活動を活発に行いたいと思わせの様子であった。

三年生は自然の中にあるアスレチックコースに挑戦した。難しいコースにも果敢に挑み、失敗しても諦めず、最後まで頑張ろうとする姿も見られた。すると、緊張感が一杯だった表情も、時が経つにつれ、好奇心一杯の表情へと変わっていった。

子どもたちは、自然に囲まれた公園の中で楽しむだけでなく、弱音を吐かず長い道のりを歩いたり、道中の紅葉や木の実を見て秋を感じとったりと、こくを遠足を通して、心身共に大きく成長できり切った。今年度も振り返り、空の下、子どもたちは大きくなった喜びを分かち合っている。この遠足の成長を五感を使って感じてほしい。

(栗飯原)

合唱祭

十一月十一日(土)第七回合唱祭が行われた。全十二クラスそれぞれが、最優秀賞を目指してステージに上がった。ハーモニーホールでは、児童、保護者が固唾をのみながらステージを見守り、各クラスの合唱が終る度に、会場に盛り上がる。大きな拍手が沸き起こる。今年度、見事、最優秀賞に輝いたのは六年B組。最高学年は六年B組。最高学年は六年B組。最高学年は六年B組。

芋掘り

十月二十四日(月)、星野学園小学校の一年生六十名は川越市にある農場で芋掘りを行った。

六月に自分たちで植えた芋を掘りに行く。顔をの大きさと同じくらいのお芋!



顔をの大きさと同じくらいのお芋!

今年で十回目を迎えた芋掘りは例年

惹きつけた。開校当初、小学生は中学校の合唱祭に参加していた。小学校創立四年目にして、初めて小学校単独で合唱祭を開き、今年で七回目。中学校の合唱祭も例年同時期に行われ、毎年、最高学年である三年生を中心に熱戦が繰り広げられていく。表彰式では涙と歓声が起るほど、星野中学校における合唱祭への思いは強い。

音楽は、星野学園が力を入れている分野の一つ。音楽を通して、心を開き、豊かな感性を身に付けてほしいという思いから、一年生からステージマナーや歌唱の指導をしつかり行う。小学生のうちから何度もステージ経験を積めるといのは、何とも贅沢な環境だと自負している。

(池田)



指揮棒をふるのは児童です。

農場体験も十周年を迎えました。そこで、お世話になってきた農家の皆様に感謝

十周年!

10年間ありがとうございました。これからもよろしくお願致します。

(本松)



あるクラスの合唱祭

そのクラスは一つの目標に向かって歌い続けた、「最優秀賞」、その頂に辿り着くために。ある者は「低学年には無理だ」と言い、ある者は「楽しければいいんだよ」と、初めから諦めていた。しかし、星野学園は挑戦を励行する学校。そのクラスの心の炎は燃え続けていた。

いよいよ迎えた本番当日。子どもたちの表情に緊張はなく、自信に満ちた笑顔がホールに弾けた。

結果発表を迎えたとき、そのクラスの子どもたちは達成感で満たされていた。最優秀賞ではなかった。だが、それ以上のものを手に入れた。演奏終了後の割れんばかりの拍手が、鳴り止むことなく子どもたちを讃えてくれたのである。これこそが、このクラスにとっての最優秀賞だったのだ。(本松)



会場が一体となって合唱祭を作り上げた。

各部屋では六年生が趣向を凝らしたお楽しみを考えて待ち受け、班ごとに回って来る子たちにお菓子を配った。先生たちの衣装もあり、楽しい時間を過ごせた。(池田)

ハロウィン

十月二十七日(木)、二期の児童集会在開かれた。二期は毎年恒例の「ハロウィン集会」。今年も全校児童がお手製のマスクをつけ、トリックオアトリートで校内を回った。

各部屋では六年生が趣向を凝らしたお楽しみを考えて待ち受け、班ごとに回って来る子たちにお菓子を配った。先生たちの衣装もあり、楽しい時間を過ごせた。(池田)



5年生が縦割り班をリードします。